

原発事故と食の安全 (15)

今夏は立秋を過ぎてもいつまでも暑さが続き、多くの人々が熱中症のため病院に運ばれました。皆様はいかがお過ごしでしたでしょうか。一番電力消費が多くなる夏の高校野球甲子園大会のテレビ観戦時にも全国的に使用電力はほぼ 90%以下で、2年間、原発 0 でも十分やってこられたのです。焦った原発推進派は避難計画も不十分で使用済み核燃料の持って行き場も無いに拘わらず、川内原発の再稼働を強行しました。多くの人々の道理ある反対の声を無視して、何を求めているのでしょうか。己の良心と知性に鑑み恥ずべきところは無いのでしょうか。

原発は事故が無くても海や陸地の周辺の核汚染や使用済み核燃料の安全な保管場所なく膨大な量が一時保管のままであり、ひとたび事故を起こせば取り返しのできない悲惨な事態に陥ることは、3-11以降のみんなの共通認識となっているのです。

私たちは汚染の実態を追跡調査するために、同じ農園の無農薬緑茶（静岡）を毎年測定しています。ゲルマニウム半導体検出器によるγ線スペクトロメトリーによる測定分析です。

平成 23 年度産	321Bq/Kg	(Cs-134	147	Cs-137	174)
24 年度産	31Bq/Kg	(Cs-134	12	Cs-137	19)
25 年度産	11Bq/Kg	(Cs-134	4	Cs-137	7)
26 年度産	8Bq/Kg	(Cs-134	3	Cs-137	5)
27 年度産	5Bq/Kg	(Cs-134	1	Cs-137	4)

この緑茶は無農薬で腐らないため O-RING 検査のサンプルとしてとても貴重なものです。放射性セシウムの被害はとても個人差があります。以前にもお伝えしましたがγ線を放出しているセシウムに対して一種のアレルギー反応を引き起こし、体から排泄していく過程で様々な病状を起こしているのです。アレルギーを起こさない人は、カリウム 40 を上手に排出しているように、同じ食品を食べながら何ともないのです。この違いが理解されないため放射性セシウムの被害で苦しんでいる人に、気のせいだ、ノイローゼだと識者でも、云うのでしょうか。以前にお伝えした方法により 1 か月で体から除染することはできるのですが、他のアレルギーと違って、反応を起こした所の修復は簡単ではありません。放射性セシウム以外の物が原因でも同じような症状が続き、自分でも訳が分からなくなっている場合も多いのではないかと思います。それと同時に指摘したいのは何度も再発を繰り返す方が多いということです。汚染の強いものを摂取していると思われるのですが、それが一体どのような食材なのか客観的に明らかにしていきたいと思っています。健らいとが導入したベラルーシの ATOMTEX 社製ヨウ化ナトリウムシンチレーターを有効に活用していきたいと思えます。近じか皆様の測定のご希望にお応えできるようになりますので、どうぞご活用 of 程宜しくお願ひします。